

「日常に戻って」

新型コロナウイルス感染症が「5類」となり、マスク利用も個人の判断に委ねられる等、コロナ禍以前の日常が戻ってきた感覚が日々感じられる先月上旬、**松下政経塾**の塾頭をされ、その後**志ネットワーク**を主宰されている**上甲晃先生**より、久々の山形訪問の打診がありました。この向日葵だよりでも報告させていただきましたが、先生とご一緒に平成12年ころより10年連続の「**中国理解講座**」に加わり、旧満州地区からチベットの果てまで、「**誰よりも中国通になろう**」と出かけ見聞を広めることができました。「**世界から目を離すな講座**」でも、北アイルランド、トルコ、ロシアなど、**微妙な国際情勢が絡む諸国で貴重な体験**を積み重ねていただきました。（この間、きな臭くなった中東情勢を受け、イスラエル行きは直前に中止となった年もありました。）そんな先生のリクエストに応えるべく、先生の発案でもある「**当たり前グランプリ**」で、永く座長をされた**和田英光さん**をお誘いし、久々のご来形に合わせた懇親の場を持たせていただきました。当日が近づくと、私共の事務所の「**はたごまち生き生き講座**」で講師をお願いしたこともある**上山温泉”日本の宿・古窯の元女将（大女将）の佐藤幸子さん**の話が聞きたい、予定を組んでほしい”と先生から連絡がありました。（そこで、佐藤幸子さんとは年に数回の食事会メンバーでもある家内の税理士から、上甲先生の著書を数冊お届けすることにしました。）約束の時間に宿の応接室で対談が始まりましたが、事前にお届けした著書には、いたるところに付箋が貼ってあり、話されるポイントのメモも準備されておられました。（**松下幸之助翁94歳の晩年と比較され、御年95歳の元女将のかくしゃくたる言動は、衝撃的な出会いであったと上甲先生も驚かされていました。**）当日身近でお話を聞くことになった5名が、みな感嘆した次のエピソードは、特に印象に残るものとなりました。

- ①旅館経営が軌道に乗り始め、周りの旅館が売りに出されるたびに買い取った結果、いつしか旅館街の真ん中となり、付近の旅館のゴミの集積場となってしまった。市に掛け合ってもらいが明かず、周りを一層きれいにした結果、ご近所は丁寧にゴミを置くようになり、集積場もどこかの場所に移っていた。きれいに掃除をしたおかげであったと。
- ②高名な高級ホテルの見学会に参加した際、立派過ぎて特段参考にはならないと思ったが、各部屋には小さなセルロイド製の針箱が備えてあった。この程度の気づきはすぐにでも実行できると考え、全室に置いたそう。ほどなくして、著名な劇作家も重宝された…という口コミが広がったそう。
- ③帝国劇場で、大女将原作の「からっぽの金庫から」が浜木綿子主演で上演された際、佐藤さんから全国の女将たちへ“出演（エキストラ）”の呼びかけがなされた。各地の女将のひいき筋の地方の名士たちが、縁者を連れて続々と観劇にきてくれた結果、連日満員を記録できたそう。



佐藤 幸子氏

上甲 晃氏

大女将の体験の“**宝の話題**”の余韻に浸りながら、上山の宿で上甲先生ご夫妻・和田座長そして私共5名は美酒とおいしい肴で歓談を続けることができました。